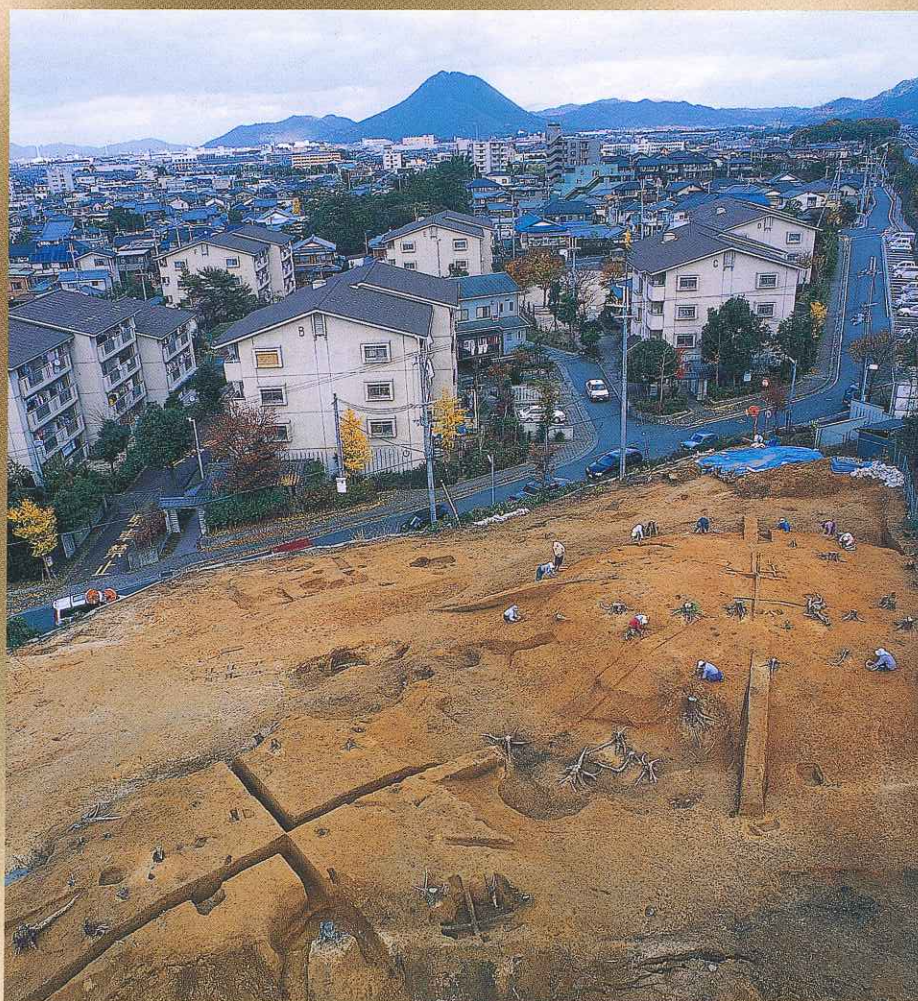


はっくつ 2003

栗東市話題の発掘調査



▲安養寺古墳群（新開3号墳）出土遺物



▲安養寺古墳群全景

安養寺古墳群・霊仙寺遺跡・辻、高野遺跡・岡遺跡・小柿遺跡

霊仙寺遺跡 - 小平井廃寺 -

滋賀県南部に広がる沖積平野は、古墳時代後期に葦浦屯倉が置かれるなど古くから開発が進められた地域です。

琵琶湖対岸に大津宮が営まれた頃には、湖岸付近を中心に白鳳寺院が集中して造営されます。内陸に入る栗東市内でも狛坂寺跡や手原廃寺、蜂屋寺跡などの白鳳寺院が知られていますが、市内では湖に近い霊仙寺遺跡の蛭子神社周辺で古瓦が出土し、寺院の存在が推定されていました。

今回の発掘調査は、その蛭子神社の西側、小字「堂ノ西」で実施しました。みつかった遺構は、南北方向に掘られた溝や規模の大きな掘立柱建物です。遺物は、7世紀の中頃から8世紀を中心とした須恵器のほか、溝からは多量の平瓦・丸瓦が出土し、軒丸瓦や円面硯などもみつかりました。このような調査成果から、ここが白鳳寺院跡と判断

され、大字名から「小平井廃寺」と名づけました。

小平井廃寺の北600mの十里遺跡では、役所と考えられる区画溝や建物が確認されていて、「乙酉年」（天武14年・685年）や「勾連」と記された木簡が出土しています。勾氏は栗東市内に上鉤や下鉤の地名が残るように、この地の有力氏族であり、小平井廃寺の造営にも関わったことでしょう。（佐伯）



▲素弁十二葉蓮華文軒丸瓦



▲調査地全景



▲軒丸瓦各種

新開3、5、7号墳
安養寺古墳群

〈表紙の遺跡〉

安養寺古墳群は、安養寺山麓の北西側一帯に広がる20数基の古墳からなる古墳群で、1959年に名神高速道路建設に先立って発掘調査が行われています。とくに新開1号墳からは銅鏡・玉類や多量の武具・馬具が出土し、古墳時代中期における首長クラスの古墳として知られています。

2003年度の調査は新開1、2号墳の西側に隣接する地点で実施され、円墳1基、方墳3基および土壌墓が確認されました。このうち円墳（3号墳）は直径21mで、約3mの墳丘を残しています。主体部はすでにその大半が崩れていましたが、かろうじて銅鏡（振文鏡）・鉄剣などの副葬品が残されていました。

また墳丘の崩壊土からは埴輪片や鉄斧などが出土しました。これら円墳・方墳（5～7号墳）

辻・高野遺跡

今回の調査地は、高野神社の西側 350 m の地点にあり、カマドを持つ古墳時代の竪穴住居 3 棟、流路、柱穴が検出されました。

流路は出土遺物の状況から奈良～平安時代初めを中心に機能しましたが、須恵器の大型杯蓋や布目瓦が多数出土していることから、官衙などの公的な性格を持つ建物が付近に存在した可能性があります。

高野神社は高野地区の中心的な存在でありましたが、なぜ中心的な存在になったか、古代の景観復元による解明が待たれます。(藤岡)



▲掘立柱建物

岡遺跡

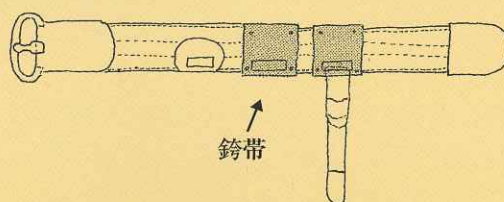
岡遺跡は奈良時代に機能した栗太郡衙の推定地ですが、中心部が発掘されたのみで、周辺施設については不明とされてきました。今回の調査は郡衙から南東へ 200m 離れた台地上で行われ、同時期に存在した官衙関連の掘立柱建物がみつかりました。柱穴からは、多数の土器に混じって銅製の銚帯が出土しました。出土銚帯は 3 cm の大きさで、一般には郡司クラスが保有したとされ、官人の居住が予想されます。(藤岡)



▲調査地全景



▲銅製銚帯

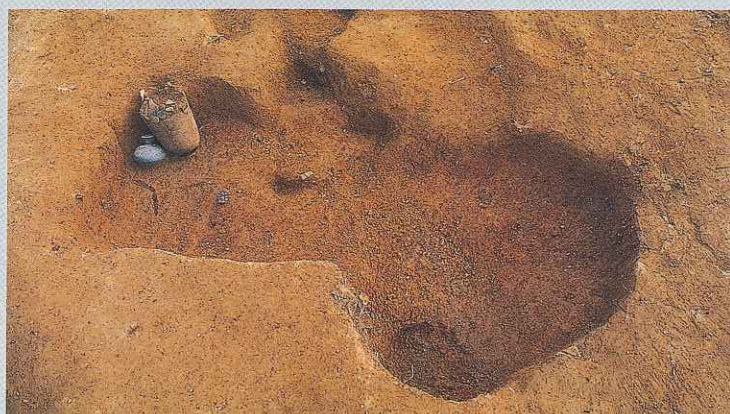


▲銚帯を装着する様子

は、新開 1 号墳と同じ古墳時代中期のものと考えられます。

土壙墓は古墳時代終末期（飛鳥時代）のものです。2002 年度には今回の調査区に隣接する新開西古墳群で終末期古墳 4 基が確認されており、飛鳥時代の墓域の広がりを確認することができました。

(雨森)



▲土壙墓

小柿遺跡



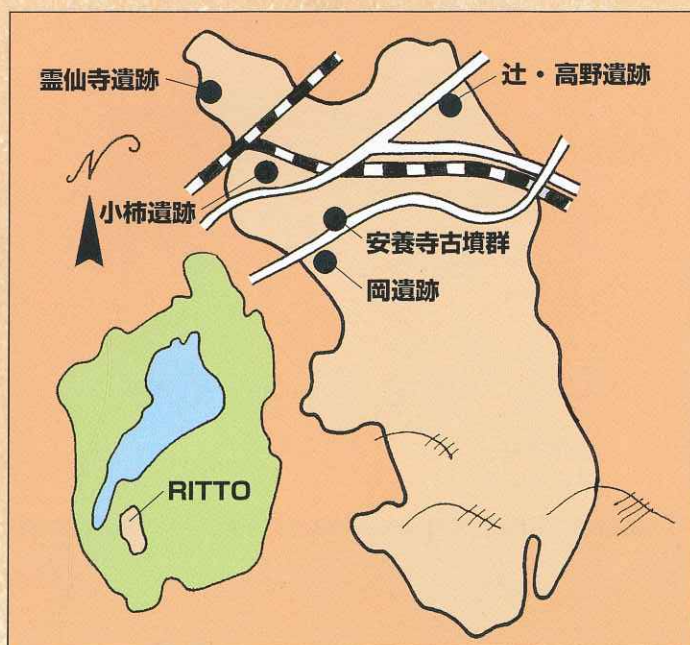
▲堅穴住居群（左上が多角形住居）

小柿遺跡は、葉山川左岸の微高地に位置しています。周囲には、下鉤遺跡や中沢遺跡が隣接して存在し、葉山川流域における弥生時代の中心地として集落群を形成しています。

近年の調査では、弥生時代後期の堅穴住居や掘立柱建物が各地で確認されており、集落の範囲が約 50,000㎡ 以上にわたってひろがることが推定されています。

今回の調査では、弥生時代後期の堅穴住居7棟をはじめ、土坑、溝などがみつかりました。堅穴住居は、方形プランのものと、隅丸方形のものが主体ですが、多角形プラン（おそらく五角形）と推定されるものが1棟存在します。この住居は7棟のなかでは最も大きい住居です。滋賀県では、守山市の伊勢遺跡や草津市の柳遺跡などで多角形住居がみつっていますが、やはり通常の住居より規模が大きい例が多々みられます。このことから、多角形住居は通常の住居とは区別されていた可能性があります。指導的立場の人が住んでいたか、もしくは共同で使用するような建物であったなど、いろいろなケースが考えられます。

（近藤）



▲遺跡の位置

はくつ2003

～栗東市話題の発掘調査～

発行日 2004年3月31日

編集・発行 財団法人栗東市文化体育振興事業団 文化財センター
〒520-3011 滋賀県栗東市下戸山47番地
栗東市出土文化財センター内
TEL077-553-3359 FAX077-553-3514

印刷 宮川印刷株式会社